



令和4年6月2日

## 広島大学文書館が 新たな所蔵資料目録と証言集を刊行しました

### 情報提供

広島大学文書館は、本学の理念5原則の一つである「平和を希求する精神」の実現に向け「平和学術文庫」を設け、戦後の被爆者救済運動、反核運動、原爆報道等の資料を収集してきました。また、広島大学75年史編纂事業の一環として、卒業生を中心に被爆体験やかつての学生生活を記録するための聞き取り調査（オーラル・ヒストリー）を行っています。

今回、秀敬氏（元広島大学名誉教授）が旧蔵していた昭和20年10～12月にかけて広島文理科大学地質学鉱物学教室が行った被爆岩石調査の資料目録と、内海朝次郎氏（元同盟通信社編集局参事）及び内海紀雄氏（元朝日新聞社代表取締役専務）が所蔵していた資料の目録をそれぞれ刊行するとともに、一般公開を開始しました。

また、学生の日常生活に重点をおいた卒業生14人の証言記録集と、政経学部卒業生の新井俊一郎氏の被爆体験記録「ヒロシマで被爆全滅を免れた中学校1年生だった私は当日入市被爆者です」を刊行しました。

資料と証言記録の概要は以下の通りです。

**【秀敬氏資料】**広島文理科大学の卒業生で、広島大学総合科学部教授等を務めた（専門は地学）。ご遺族から秀氏の研究や仕事に関する文書の寄贈を受け、公開のための整理を行ってきました。当時学生だった秀氏は広島文理科大学の地質学鉱物学教室が行った原爆の被災調査に参加し、詳細な調査記録を残しました。2019年夏に医学部附属医学資料館で展示を行いました。

**【内海紀雄氏資料】**内海氏は朝日新聞社広島支局勤務時代、中国新聞社の金井利博氏から原爆報道について教えを受けました。広島大学文書館が金井利博関係文書を収集した際に、内海氏から関係する資料の寄贈を受け、さらに父の内海朝次郎氏のものも含め多数の資料を寄贈していただきました。

なお、取材源の秘匿やプライバシー保護の観点から、取材に関する資料や朝日新聞社の経営に関する資料は70年間原則非公開としますが、研究者による学術研究を目的とする等の条件を満たした場合に限り、例外的に閲覧を許可します。戦後のメディア史研究をする上でも貴重な資料です。

**【広島大学文書館オーラル・ヒストリー叢書第1集 卒業生証言記録集（1）】**史料を提供いただいた卒業生を中心に無作為で聞き取り調査を行い、普通の学生の経験を残すことを目的とした証言集です。岡部ひさ枝氏（附属小学校高等科の教育内容）、松村正道氏（昭和25年に起きた警察による学生の一斉拘束事件の体験談）、田村咲江氏（広島大学で最初の女性教授となった岡上誠子氏の思い出）、久永洪氏（歴清社4代社長、広島のおんリーワン企業の足跡）などを収録しています。

**【「日常の中の被爆」プロジェクト第4集 新井俊一郎オーラル・ヒストリー ヒロシマで被爆全滅を免れた中学校1年生だった私は当日入市被爆者です】**中国放送報道部長などを務めた新井俊一郎氏の被爆体験と戦後の人生についての証言。原爆

によって友人を多数失い生き残った者としての体験や思い、原爆との向き合い方などについて語っていただきました。広島におけるラジオ放送やテレビ放映の草創期の実態を伝えるものといえます。

あわせて新井氏はアカシア会（広島大学附属中・高等学校同窓会）の幹事を長く務め、日本被団協の初代事務局長、藤居平一氏との思い出なども語られています。

【お問い合わせ先】

広島大学文書館（担当：伊東）・75年史編纂室（担当：石田）

Tel：082-424-6050 FAX：082-424-6049

E-mail：bunsyokan@office.hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4版 2枚（本票含む）